6月号 こどもとのこころの距離を縮めるために

今回はこどもとの物理的な距離について確認しました。今回はこころの距離を縮めてよい関係をつくるための方法を考えます。

まず意識したいのはこどもとの雑談です。不登校ジャーナリストの石井しこう氏も雑談の重要性をお話しされていました。ところが、いざ、こどもを前にすると何を話したらよいのか思いつかないことがあるかもしれません。そのようなときの備えとして、例えば 3K（給食・クラブ・季節）、3G（学校・行事・ゲーム）などと、話の引き出しを、あらかじめ考えておくことも一つの方法です。

また、こども未来教室の参加生には「初回アンケート」を実施しています。そのなかに『勉強以外に熱中しているものを教えてください』という項目があります。記載内容を見ると、こどもたちは実にいろいろなことに興味関心を持っているとわかります。こどもが書いた内容を覚えておいて、話の切り口としてもよいかもしれません。

逆に服装や、持ち物など、こどもの外見や所有しているものを話題にすることや、プライベートに属すること、例えば家族のことなどを根掘り葉掘り聞くのは避けたほうが無難ですね。

こどもが話を始めたら、しっかり耳を傾けましょう。聞いているはずがいつの間にか自分の話をしているということはありませんか。こどもの何気ない一言のなかに、本心が隠されていることもあります。気になる発言などがあつたら、その場では否定せずに耳を傾け、その後、指導員に報告、相談するなど必要な対応をとりましょう。

話をよく聞いていることを示すために相槌も大切です。褒める相槌の一例として「さしすせそ」をご存知でしょうか。「さ」さすがだね。「し」知らなかった。「す」すごいね。「せ」センスあるね。「そ」そうなんだ。これらの相槌を、タイミングよく使うことで、こどもの意見を尊重しているという気持ちが伝わりますし、こどもの自己肯定感を高めることにも繋がるかもしれません。会話のアクセントとして意識してみたいかがでしょうか。